

患者ニーズに合った子どもの心の 診療体制の在り方およびその効果 判定の方法に関する研究 (全体調査)

藤原武男^{1,2}、奥山真紀子²、舟橋敬一²
国立保健医療科学院
国立成育医療センター



背景

- 近年、子どもが心の問題を持っていると思われた場合に、どこに相談してよいかわからない、また軽度の問題ながら専門病院を受診している、等の問題があることが指摘されている。
- 欧米においても子どもの心の問題に関して、そのサービスを提供する施設の利用において障壁（バリアー）があることが報告されている (Owens et al., 2002)。
- そこで、本研究の目的は、心の問題を持っていると思われる子どもがどのような過程で心の診療にたどり着いているのかを把握し、保護者が現在の子どもの心の診療体制にどのような認識を持っているのかを調査することである。

仮説

- 患者が、どこに相談してよいかわからないことが問題となっている。
- 相談をうける教育・保健・福祉機関と、医療機関との連携がうまくいっていないことが問題となっている。
- 軽度の問題でも子ども心の問題に関する専門病院を受診している。

方法

- 全国における子どもの心の問題に関する専門病院（N=16）を受診した患者およびその家族に対し、質問紙により調査する。

宮城県こども総合センター	国立成育医療センター	あいち小児保健医療総合センター	香川小児病院
国立国際医療センター国府台病院	神奈川県立こども医療センター	三重県立小児心療センターあすなろ学園	医療法人 翠星会 松田病院
埼玉県立小児医療センター	静岡県立こども病院	大阪府立精神医療センター 松心園	国立病院機構鳥取医療センター
東京都立梅ヶ丘病院	信州大学医学部附属病院	神戸大学医学部附属病院	肥前精神医療センター